

# NPO 自立支援センター ふるさとの会

2007.4.20  
【第4号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENTS

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

## INDEX

- ① 水田代表に聞く～新年度に向けて～
- ② 地域支援センター行事報告 お花見
- ③ 3/17都市公園セミナーat大阪
- ④ 3/24 新潟ホームレス生活実態調査報告会
- ⑤ 利用者さんの声～日の出館 田中ひとみさん～
- ⑥ 事業所探訪 その7 リビング
- ⑦ 今月のボランティア募集

### 1.水田代表に聞く～ふるさとの会の社会使命と今後に向けて～

当法人は、1999年にNPO法人格を取得し、「特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会」としてスタートして、8年目を迎えました。そこで、今回は改めて、水田代表に当法人の社会使命、価値観について等を聞きました。また、このメールマガジンを通して、少しでも多くの方々に当法人の社会使命や価値観について、ご理解いただければ幸いです。

#### —ふるさとの会の社会使命について

「地域の中で、安定した住居を確保し、安心した生活、居場所をつくってもう一度誇りある社会的役割を回復するための支援を行っていくこと。このミッションをしっかりと事業の中に組み込むことが大切です」

#### —ふるさとの会の価値観・基準とは

「共感・連携・効率化の3つあります」

「共感とは、彼らをわかること。そして、彼らのニーズを把握し、新しい支援システムをつくっていくことです」

「連携とは、一つは、事業体の中での連携。これは、個別のニーズに対応し、多様なプログラムで支援していくこと。二つ目は、社会資源を活用し、地域の医療や民間サービスを取り入れることです」

「効率化とは、効率的に事業を運用し、収益をあげることです。そして、あげた収益を事業目的に沿って新しい事業に使うことです」

#### —格差社会について

「格差のよって作られた階層を乗り越える希望がなくなった絶望の時代になりました。大切なことは就労支援や要介護高齢者等の働けない人への支援を行い、具体的状況を変えることで希望につなげていくことです」

#### —今後の具体的な事業について

「居場所がなく、ビジネスホテルに住むことを余儀なくされている女性が多くなっていることもあり、女性の寮を作って、社会的入院の解消をしていきたいと考えています」

今回の取材を通して、今後も常に利用者のニーズを把握することや、社会の流れを感じ取りどのような支援や事業が必要なのかを考えていき、当法人としてできる新しい支援や事業を提案していきたいと思いました。  
(西川雄啓)



水田恵(みずためぐむ) 昭和22年6月1日生まれ。島根県出身。山谷歴35年。

山谷での日雇労働などの経験を経て、90年 ボランティアサークルふるさとの会発足。95年 高齢路上生活者自立支援センター発足。99年 NPO自立支援センターふるさとの会設立。現在、代表理事。

### 2.地域支援センター行事報告 お花見

3月30日、山谷堀公園にてお花見が行われました。開花宣言からの数日、寒い日が続いた上に29日の晩からの雨が9時過ぎまで降っていたこともあり、お花見ができるかどうか案じられましたが、10時には無事雨が止み、お花見決行となりました。前日に日の出館では「明日天気になあれ」と皆さんが願いを込めて巨大てるてる坊主が作っていました。その甲斐あってか、皆さんの希望が叶い晴天に恵まれ気温も上昇！朝とは一転、お花見日和となりました。暖かい日差しの中、おいしいお弁当を食べ、カラオケを楽しみました。お弁当の中に桜の花びらが入って「見て見て！」と笑っている方、詩を一句書き留めている方、少し疲れて横になっている方や、カラオケの音に合わせて数名の利用者様がとても軽やかな足取りでダンスを踊るといった場面が見られました。この日の楽しそうな皆さんの笑顔は満開の桜に負けず劣らず素晴らしいものでした。すでに次回の外出行事を楽しみにしている方もちらほらと・・・。  
(野中智恵)



雨も上がり絶好のお花見日和になりました



別々の宿泊所の利用者さん同士仲良く交流

### 3.都市公園セミナーat大阪

去る3月17日、大阪府営住吉・住之江公園の指定管理者である都市公園管理共同体が(NPO法人釜ヶ崎支援機構と大代興業株式会社、株式会社美交工業とのジョイントベンチャー)主催したシンポジウムに当法人の水田理事長が参加しましたので、同行取材しました。

水田理事長はこれからの就労支援というテーマで報告を行いました。

まず、当法人の事業内容を簡単に説明し、その事業を行うことにより、元路上生活者を延べ40人以上雇用してきたことやホームレス自立支援を行うことにより、その地域で新しい産業・雇用が生れるということを話しました。また、就労支援の一部として、生活面でのサポートをする「ケア付き就労」の必要性について話し、今後は総合評価一般競争入札制度を導入して、企業側による「ケア付き就労」を推進させることで、就労困難者の雇用促進及び民間企業の業務拡大となり、総合評価制度を導入した企業の業界全体のマインドを変えることができることを話しました。

※ケア付就労を行っているエルチャレンジでは働きたい障害者のための支援を行っています。公園での訓練では除草作業があります。人によっては花と草の区別が難しいこともあります。また、花がら摘み作業でも枯れた花と、つぼみの見分けが難しいこともあります。このような場面に限らず、作業をする一人ひとりの障害の違いによって、作業内容をひとつひとつ細かく伝えていくことや仕事のマニュアルを整備することが重要です。



公園の随所にこのような取り組みを掲示しています 全国からのシンポジウムの参加者も熱心に見学



●その他演目内容の紹介

○フィールドワーク

会場でもあった住吉公園の中を周りながら事業の説明を受けました。

住吉公園～住之江公園間のレンタサイクル事業(NPO法人釜ヶ崎支援機構がホームレスの仕事づくりとして、回収された放置自転車を修理・販売しているもので、賛同いただいた方々による寄付によって支えられている)・菜の花プロジェクト(地域住民にボランティア参加を呼びかけ、ボランティア菜の花を栽培し、菜種油を採取し、バイオディーゼル燃料の精製)・ペットブームへの対応として、犬のトイレ設置(その糞を利用し、公園で利用する堆肥を作る)・住吉公園で就労訓練している知的障害者の人達が作った花壇(エル・チャレンジ協働)の紹介及び説明を受けました。

○シンポジウム1(魅力ある公園づくり)

財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 常務理事 亀山始氏  
住之江公園事務所長 田矢雅昭氏  
株式会社美交工業 専務取締役 福田久美子氏

○記念講演 ソーシャルインクルージョンの理念による まちづくり 公園づくり  
前環境省事務次官 炭谷茂氏

○シンポジウム2(公園づくりと就労支援)

NPO法人釜ヶ崎支援機構 理事長 山田實氏  
大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合 柴田秀一氏

○自由討論

以上の参加者。司会 株式会社 ナイス 代表取締役 富田一幸氏

今回のセミナーに参加して、企業とNPO法人が共に事業を行っていくことにより、就労困難者の雇用が生れることや充実した就労支援を行うことができると思いました。

炭谷茂氏の講演でのソーシャルファーム(ビジネスの手法を使って、ケア付き就労を行いつつ、就労困難者を雇用していくもの)についての話が、特に印象に残りました。炭谷氏はヨーロッパではソーシャルファームが1万社あるので、日本でも各市町村に一つずつ設置されればと話しておられました。

私自身もそのように思いましたし、今後はできれば国や自治体が公的な支援を行い、ソーシャルファームを増やして、障害者・高齢者・ニート・ホームレス・刑余者等の就労困難者の雇用を増加させる必要があると強く感じました。(西川雄啓)

#### 4.新潟ホームレス生活実態調査報告会

3月24日、新潟市総合福祉会館にてNPO法人ホームレス支援ネットにいがた主催の新潟ホームレス生活実態調査報告が行われました。

まず始めにNPO法人ホームレス支援ネット理事長 佐藤進氏よりこれまでの活動を通し、法人としてようやく新潟での社会的認知がされてきた、法人ではパソコン教室を行っており、(報告当日)利用者様がパソコンで書いた絵をTシャツにプリントしたもの、ハガキにしたもの等を会場で展示しているとお話がありました。

その後、同法人事務局長 寺尾知香子氏より新潟のホームレスの方々の現在寝泊まりしている場所、仕事の現状、またここに至るまでの職業等について明らかにされました。

また報告後は、新潟青凌大学講師 丸山仁氏のコーディネートによる寺尾氏と水田理事長との対談が行われました。対談で水田理事長は「ふるさとの会は働けない人への支援、病院から退院した後の場所作り、再度路上にならない為の支援等といった居場所作り、受け皿作りを目的とて持続的支援をしている事、地域の中で安定、安心できる生活をする為の支援を使命としている」と報告しました。最後に対談内容が「支援をしていく上で重要なのはメンタルケアを含め、個々に合わせた多様なサービスを提供し、支援を継続していく事である、またニートやフリーターという存在が次に大きな課題を持っているという危機感を持ち予防対策を考えていくべきである」とまとめられました。

報告後の懇親会ではパソコン教室に通っている利用者の方々が努力した事への賞が贈られ、会場が拍手に包まれました。さらに利用者の方より水田理事長へ作品の1つであるTシャツが贈呈され、和やかな雰囲気の中、会が締めくくられました。(野中智恵)



新潟におけるホームレス支援についての事例報告      利用者の方々がパソコンでプリントしてT-シャツに

**5.利用者さんの声 ～日の出館 田中ひとみさん～**

今回は現在ふるさと日の出館で生活されている田中ひとみさんにお会いしてきました！  
 田中さんは、26歳のときにできたてホヤホヤの日の出館に入所され、今年で7年目になります。  
 入所されてから徐々に気持ちを安定され、現在は作業所でのお守り作りと、ふるさとあさひ館での賄い補助のお仕事とで、毎日忙しく過ごされています。  
 数ヶ月前から始めたあさひ館での賄い補助。それまでは朝が弱かった田中さんが、あさひ館の仕事に入ることになってからご自分で起きられるようになったと、日の出館で勤務している野中職員は言います。寡黙で控えめな田中さんは、照れたように笑っていらっしゃいましたが、ご自身の中で何か心境の変化があったのでしょうか。  
 今は忙しくてなかなかお部屋の掃除ができないのが悩みとか。できることから一つずつ、積み上げるように頑張っているらしい田中さん。これからも素敵な笑顔で頑張ってくださいね！  
 (金井麻衣子)



2階の共有スペースで寛ぐ田中さん



あさひ館での配膳の仕事にもなれました

**6.事業所探訪その7 地域生活支援センター台東(共同リビング)**

今回は、地域生活支援センター台東、通称“共同リビング”にお邪魔しました。  
 ふるさとの会がまだボランティアサークルとして運営されていた頃、立ち上がりの第一歩として始まった活動が“共同リビング”でした。NPOとして事業規模を拡大した今もなお、原点である共同リビングサービスは山谷のメインストリートとも呼ぶべき「いろは商店街」の中に移動して続けられており、月・火・木・金の週4日、午前11時から午後2時までの間、開設しています。  
 昼食の提供サービスを通して、利用者さんの安否確認や居場所を提供するほか、さまざまな社会サービスをコーディネートすることで地域での生活を安心して送れるように支援するというのが共同リビングの目的です。1日だいたい20人程の方々が利用されています。  
 共同リビングをお一人できりもりしている住吉さんにお話をききました！  
 「利用者さんに家庭的な雰囲気を感じていただきたいので、なるべく暖かく、気さくに接するようにしています。しかしやはり難しいのは飲酒の問題ですね。最近は減りましたが、お酒を飲まないと来られないという方がたくさんいらっしゃいます。アルコール依存症の方のための施設や施策など、具体的な改善策の必要性をいつも感じています。」とのことでした。  
 アルコールと山谷は切り離せない問題。山谷マックなど他のNPO等の社会資源と連携し、アルコール問題に取り組んできたふるさとの会。しかし、アルコール問題はまだまだ根が深いようです。まさに、最前線の共同リビングを受け持つ住吉さんだからこそのご意見だと深く感じました。  
 さて、今回の共同リビングは“地域生活支援センター台東”。次回の事業所探訪は、“地域生活支援センター「すみだ」”をお送りします！  
 (金井麻衣子)



皆さんテレビを見るなどして寛いでいらっしゃいます

いろは商店街の真ん中辺りに位置しています

♪一ロメモ～「地域生活支援センター」とは～♪

ふるさとの会では、「地域生活支援センター」を台東区、墨田区の2箇所に設置し、簡易旅館やアパートなどで生活保護を受け暮らしている高齢者や、自立支援センターを退所され、就労自立を果たした方へのアフターケア事業をおこなっています。食事提供や安否確認はもちろんのこと、希望に応じて金銭管理サービスや、アパート転宅する際の保証人などの支援もおこなっています。また、介護サービスなど社会サービスのコーディネーターや特別行事（18年度は 毎月外出プログラムを行ってきました）をおこなっています。今回ご紹介した地域生活支援センター台東は、財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団の助成を受け運営しています。

7.今月のボランティア募集

いつもふるさとの会の活動にご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

ふるさとの会地域生活支援事業部では、台東(リビング)とすみだの二つの地域生活支援センターを中心に、各宿泊所や敬老室の利用者さんとともに毎月一回の合同イベントを行なって参りました。おかげさまをもちまして、一年間の特別外出行事を、大きな事故もなく無事多くの方に楽しんでいただくことが出来ました。今年度は各宿泊所毎の行事などもあることなどから、毎月ではなく不定期とはなりますが、改めて行事を計画してゆきたいと考えております。引き続きご協力をお願いします。

なお、敬老室日曜開放の特別行事は、毎月第3日曜日に昼食会&イベントを行っております。今月は15日にカラオケ&お食事会を行いました。来月はメニューは未定ですがおたのしみの特別行事は行いますので、料理自慢の方、是非ボランティア参加をお願い申し上げます。

<連絡先> 城北福祉・労働センター別館『敬老室』03-3801-0377 (担当:秋山)

ふるさとの会ホームページも更新中！ぜひご覧ください <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

夏に向けての 캄パとして、新品の下着、歯ブラシ、ひげそり、せっけん、洗剤などを大募集しております。お問い合わせは同じく敬老室までお願い申し上げます。



発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail : [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)  
HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>